伊賀 神社参拝案内図

神社まっぷ
【津エリア】
【伊賀・名張エリア】

令和7年2月1日 発行

編　集　三重県神社庁教化委員会伊賀地区教化委員
発　行　三重県神社庁教化委員会
印　刷　上野印刷株式会社

上野（二十八社）

伊賀一宮 敢國神社
御祭神 大彦命 外二柱　伊賀市一之宮八七七

伊賀国一宮。六五八年の創建。四道将軍の一人大彦命を主祭神とする。天正伊賀の乱にて社殿悉く消失するが、藤堂高虎公により再建される。獅子神楽は無形文化財に指定され、伊賀諸社に伝わる獅子舞の源流と言われる。

C-3

波多岐神社
御祭神 大鷦鷯尊 外十八柱　伊賀市土橋七五二

延喜式内社で、古くより伊賀国三宮と称された旧郷社である。又、江戸時代当社と一体化した宇都可神社（境内社）も延喜式内社である。特殊神事として、例祭当日（十月十八日）に神事相撲が行われる。

C-3

須智荒木神社
御祭神 猿田彦命 外十八柱　伊賀市荒木一〇八

延喜式内社の一にして、通称しらひげさん、白髭大明神として慕われ、伊賀街道に接し境内で読んだ芭蕉の句碑と荒木又右衛門の生誕の地として、刃奉納等があり伊賀五社として崇敬厚く、参拝者多数をえて現在に至る。

D-3

小宮神社
御祭神 呉服比賣命 外七柱　伊賀市服部町一一五八　電話 二三―三〇六一

伊賀国二宮。天武天皇三年の創建と言われ、養蚕・機織の技術を持つ服部氏がこの地に住み着き、同氏の祖先神が祀られたと考えられている。明治期に周辺の無格社を合祀。本殿両脇には、狭伯社、蛭子社も鎮座する。

D-3

府中神社
御祭神 大鷦鷯命 外十一柱　伊賀市佐那具五九六　電話 二三―三一六〇

社伝によれば、往古より当地に鎮座され若宮八幡と呼ばれていた。明治四十二年に千歳、外山、坂之下各地区鎮座の各神社をそれぞれ合祀し、社名を府中神社と改めた。平成二十一年三月に合祀百周年記念大祭を斎行した。

C-3

友生神社
御祭神 菅原道真 外二十二柱　伊賀市下友生一〇四二　電話 二三―〇一九九

社伝によれば、村社菅原神社境内社八幡神社の神霊を勧請し、字信才の古宮に奉斎せしを、慶長十九年郷士山ノ井正遠が、大阪の陣の折、河内国道明寺より菅原道真公の神霊を勧請し現鎮座地に奉斎したのが創祀と伝える。

D-3

木代神社
御祭神 猿田毘古神 外十四柱　伊賀市蓮池三三一

伊賀の開拓神伊賀津姫の父神、猿田毘古神を主祭神として奉斎し、家相方位又道開きの神として御威徳高し、又合祀せる菊理比咩神は歯の病に霊験あり。又、合祀の長白羽神は織物の守護神として信仰されている。

D-4

猪田神社
御祭神 猪田神 外二十九柱　伊賀市下郡五九一　電話 三七―〇一二一

延喜式内社。延暦三年（七八四）創建と伝えられる。往古、周辺を治めた伊賀臣が郡衙（郡役所）を置き祖神を祀った。本殿は県の文化財である。境内からは経塚が発見された他、降雨祈願の霊石（満珠石）がある。

E-3

神戸神社
御祭神 大日孁貴命 外十九柱　伊賀市上神戸三一七　電話 三八―一〇六三

元伊勢とも呼ばれ古くは穴穂宮と称し、明治四十一年村内諸社を合祀、神戸神社と改める。倭姫世記に崇神天皇御代穴穂宮四年間鎮座とある。神宮月次祭に鮎千八百尾奉納御遺績により神宮古殿社を拝領賜り式年造替を斎行。

E-3

花垣神社
御祭神 経津主命 外二十一柱　伊賀市予野一九四

人皇第六十六代一條院の御宇、当村に一株の名樹あり是八重桜なり。此樹を献上し、花垣の庄の地名を賜う。寛弘元年に南都春日の神霊勧請奉る。明治四十一年に三郷神社に改称、大正十三年に花垣神社と改称、現在に至る。

E-2

猪田神社
御祭神 少名毘古那神 外十六柱　伊賀市猪田五一三九　電話 二一―四八五〇

創立年代不詳も古来より猪田村の宮と呼ばれ、その歴史は非常に古い。本殿は極彩色の精工なる建物で国指定の重文に指定されている。

E-3

比自岐神社
御祭神 比自岐神 外十三柱　伊賀市比自岐六八三

延喜式内社であり旧県社。古く神階正一位を授けられ大森大明神と称す。七月第四日曜日に行はれる祇園踊り神事は県の無形民俗文化財に指定されている。

E-4

田守神社
御祭神 田守神 外二十柱　伊賀市蔵縄手三五三

延喜式内社、伊賀臣の祖神彦屋主田心命を本祀とし、古来晴雨の祈願に霊験著く、特に武運長久の神として古えより参拝者絶えない。

E-2

黒瀧神社
御祭神 天児屋根命 外三柱　伊賀市治田四三〇九

社伝及び『黒瀧神社略縁起』によれば、寛弘七年余野池辺社より現鎮座地へ勧請された。江戸時代には近在の産土神として崇敬者多数。明治末期の合祀令により白樫岡八幡宮へ合祀されたが、終戦直後還御され現在に至る。

E-1

三田神社
御祭神 祇園神　伊賀市三田二四七七

三田郷の氏神にして八朔の祇園祭りは、世に知られる団扇花傘の基本となる飾りで、疫病退散と豊かな稔りを祈念している。三田は御田で社の田植神事は、田囃しの原形をとどめ富貴俵のお供えも古来通り行われている。

C-2

桶子神社
御祭神 大日孁貴命 外十五柱　伊賀市木興町八

伊賀郡高尾村に鎮座していたが承徳二年に大洪水にて神体雨寶童子が木興村に流れ着き村民是を迎えて、古来からの氏神廣國押武金日命を合祀した。古来から魔除けに霊験があり多くの人が参拝した。又祈雨の信仰もある。

D-2

愛宕神社
御祭神 火伏大神 外五柱　伊賀市上野愛宕町一八二六　電話 二一―五八六四

古代伊賀の水が水口方面に流れ出てより出現した朝日岳に愛宕の神を迎え修験道場となり元和元年修験者小天狗清蔵坊により復興。藤堂藩主の庇護のもと神道形式の祭儀が行われ今上野愛宕町奉賛会により護持されている。

D-3

平井神社
御祭神 八重事代主命 外八柱　伊賀市小田町一三二番地　電話 二四―四七七三

別名を飛来天神とも称し、菅原道真公ゆかりの梅が太宰府より飛来したという縁起をもち、江戸初期には連歌の座が開かれた文化の香り高い神社である。明治三年の大洪水に遭い現在地へ遷座した。

D-2

八幡神社
御祭神 應神天皇 外十三柱　伊賀市守田町一一九〇―一・二

武烈天皇の勅で伊賀国造中田麻呂が九州宇佐より久米山に勧請したと伝わる。藩主藤堂家の尊崇厚く、伊賀五社として敢國神社・菅原神社・愛宕神社・須智荒木神社と共に厚く崇敬されている。

D-2

菅原神社
御祭神 菅原道真公 外十二柱　伊賀市上野東町二九二九　電話 二一―二九四〇

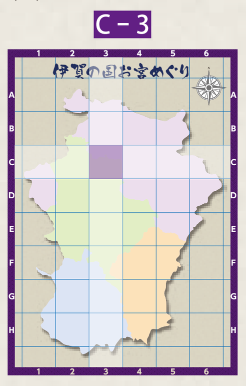
藩主藤堂家の尊崇厚く鐘楼梵鐘の建立社領の寄進あり。文学の神として合格・文芸の上達を祈る者多数。十月二十五日（例祭）直前の日曜日は神幸式を行い鬼楼車の供奉あり。芭蕉は「貝おほひ」を献納立志の祈願は有名。

D-3

凡例
各枠の中右下の記号は、裏面の「伊賀の国お宮めぐり」のグリッドの記号と番号を記載しています。

〈例〉

C-3



岡八幡宮
御祭神 誉田別尊（應神天皇） 外十三柱　伊賀市白樫三六三八　電話 二〇―一八二八

建久元年（一一九〇）源頼朝の命により八幡宮を諸國に一社勧請する志をたて神意を問うた所「まず伊賀と示現があり同年四月十八日鶴岡八幡宮より御霊を勧請社号を岡八幡宮と定めた頼朝公より社領五十石寄進さる。「江戸時代に至り領主藤堂高虎以下代々領主より寄進あり祈願所と名が知れる」

E-2

菅原大邊神社
御祭神 菅原道真公 大苫邊之神 外十一柱　伊賀市大野木一〇五二　電話 二一―三六九一

惣国風土記准后伊賀記には、大宝元年八重事代主神等が祭られた。社伝及び近世以降の地誌によると天正の乱による社頭焼失まで天王と称した。以後菅公を奉祀したと伝えている。大苫邊の神は伊賀発祥開発の女神と思える。

D-2

春日神社
御祭神 天児屋根命 外一柱　伊賀市岩倉四一〇　電話 二四―〇四八〇

恒武天皇皇女伊登内親王は、従者十八名とこの地に至り居を構える。天徳年間内親王崇敬の春日神を勧請し祭儀が始まる。時代とともに里も栄え岩倉地区民二百戸の氏神として特殊神事、弓始式を含め祭儀を斎行している。

D-2

高倉神社
御祭神 高倉下命 外数柱　伊賀市西高倉一〇四六　電話 二一―五八六四

高倉下命七世倭得玉彦命がここに居を構え、新居部の郷を興してより繁栄と平安を祈念して祭祀が営まれている。特に祖神が我倉より鹿島神に戴いた天剣を肇国の礎としたのでその功績を尊び倉庫祭が斎行されている。

C-2

應感神社
御祭神 豊受大神 宇迦能御魂神 外十二柱　伊賀市法花一三五〇

当社は、国史現在社にして農業の祖神豊受大神を主神として祀るが故に、農村の氏神として氏子の崇敬最も厚く、殊に祈年祭の五穀豊熟祈願の護産は他町村の農業者等が詣でて豊産を祈り、神符を拝受する者年と共に多し。

D-2

射手神社
御祭神 応神天皇 玉垂命 外十三柱　伊賀市長田二六九一　電話 二一―五二七二

当社は、天武天皇の瑞夢に依り、射手山に勧請射手大明神なり、天正の乱にて焼失後に現在の社地に遷座、射手神社は明治四十一年長田郷の諸社を合祀。源義経詣でて戦勝祈願の折、矢を奉納以来、勝運長久厄除神として名あり。

D-2

春日神社
御祭神 天児屋根命 木尾明神 外十四柱　伊賀市西山二二六五　電話 二三―四三六四

新居の里が藤原家ゆかりの葉室家に関わる為、久安三年奈良春日大社の祭神を勧請して氏神社とした。今に伝わる通称茄子まつりは以前より地域の守護神として奉斎する木尾明神の神事である。

C-1

諏訪神社
御祭神 諏訪明神 外九柱　伊賀市諏訪一六一六　電話 二一―五八六四

第六十一代朱雀帝御宇南近江に居を構えた、甲賀三郎兼家公が信奉する諏訪明神を山嶽神を祀っていた氏子が、諏訪神を迎えて奉仕したのがはじまりで、一八五戸の氏神として宗旨祭をはじめ年中祭儀を斎行している。

C-2

阿山（十九社）

都美恵神社
御祭神 栲幡千々比賣命 外三十五柱　伊賀市柘植町二二八〇　電話 四五―三六三六

創立年代は不詳であるが、旧記によると敏達天皇の御代と伝えられる。光仁天皇の御代には、勅命にて社地社殿の制定あり。明治末の合祀により一村一社の實を挙げた。柘植は元伊勢の地でもある。

B-5

穴石神社
御祭神 木花佐久夜比売命 外十二柱　伊賀市石川二二九一　電話 四四―一二九九

特殊神事…勧請祭（神縄釣祭）【一月第二日曜日】氏子青年が各戸から奉納された縄を太さ十五センチ、長さ五十メートルの大注連縄に綯い上げ、地区の巽の方角に流れる川の上に張り、福の流出、禍の侵入防止を祈願する。

B-3

玉瀧神社
御祭神 健速須佐之男命 外十五柱　伊賀市玉瀧七六〇九　電話 四二―一七五五

かつて豊田神社と称し、創建は延喜三年（九〇三）播磨国・広峯神社（牛頭天皇総社）より勧請し祀る。明治四十年玉瀧村内の二十七社を合祀し、玉瀧神社と改称。手水鉢は南北朝時代、湯屋信仰に使用された石造湯槽。

B-3

鸕宮神社
御祭神 積羽八重事代主命 外十四柱　伊賀市島ケ原四六八九　電話 五九―二〇六五

天平勝宝四年からはじまった東大寺・二月堂のお水取りの『鵜』の故事とゆかりが有り、等しい歴史を持つ。一の鳥居横には巨大な自然石の石灯籠がある。毎年十二月二十日には日本一遅いと云われる秋祭りが行われる。

D-1

陽夫多神社
御祭神 建速須佐之男命 外二十二柱　伊賀市馬場九五一　電話 四三―〇一五八

（一）二本の杉の巨木（二）細長い下拝殿（三）厳寒の夜にふんどし姿で裸々押し（四）例祭奉納の羯鼓踊（五）祇園祭宵宮の奉納花火大会（六）祇園祭の神挙式、子供神輿、願之山踊、花傘あげ

B-3

真木山神社
御祭神 天児屋根命 外十三柱　伊賀市槇山三三三七　電話 四二―一一九一

古くは真木山大明神または白石明神と称し、延喜式内伊賀二十五座の一座で、往古は白石山に鎮座在しが、天正の兵火に罹り焼失せり。創立は不詳なるも天正末期に現在の地に移遷創建される。

A-3

鞆田神社
御祭神 大日孁貴命 外二十四柱　伊賀市中友田九六二　電話 四三―一七二七

創立は天平年間と言われている。当社は上野城の鬼門に当たるとして、藤堂公の崇敬が特に篤く、鉄鋳の扁額と儀槍二筋が寄進されている。鎌倉・南北朝初期の湯屋信仰の名残を留める石造湯槽が手水鉢の台石として利用。

B-4

諏訪神社
御祭神 健御名方命 外九柱　伊賀市丸柱一五四五　電話 四二―一七五五

創建は元亀年間、特殊神事・宗旨祭は毎年十二月初旬本殿で宗旨祭典が、続いて隣接の参籠舎で宗旨祭礼が全氏子の長男参加、太鼓を合図に当家が準備した膳（焼魚・豆・昆布巻等）で神酒を酌み交す神事。

B-2

日置神社
御祭神 大日孁貴命 外十柱　伊賀市下柘植二二六〇　電話 四五―六三六〇

平宗清の長男、日置太郎家清が下柘植に住んでいた時神社を創建された。天正九年織田氏の兵火にかかって全焼したが、その子孫住民が協力して再建したという。明治四十年七月村は無格社を合祀。

C-4

春日神社
御祭神 武甕槌神 外四柱　伊賀市川東六一三　電話 四五―四三九八

「明細帳」に「本神社は人皇第四十八代称徳天皇の御代神護景雲三年に勧請せし」とある。主要建物には別棟に神殿五宇。県文化財の割拝殿、絵馬十三面があり、獅子神楽・願解角力は、四月十六日の恒例神事。

C-4

手力神社
御祭神 天手力雄命　伊賀市東湯舟一〇二五　電話 四三―一七二七

正応年間に信濃国戸隠村の戸隠神社より分社勧請されたと伝えられている。当社の掛け鈴には崇敬者の願いを込めた鈴の緒が数百年の歴史を秘めて大輪を成している。十月十七日の例大祭の夜に願火花火奉納。

B-4

佐々神社
御祭神 八重事代主命 外五柱　伊賀市音羽六一八　電話 四三―〇六〇七

延喜式内國史見在の社。貞観十五年九月授従五位上。往古は、篠嶽に在ったが文禄年間に今の地に遷す。本殿は萱葺にて古くは、四年毎の式年なり。御屋根に篠竹発生するを以て名あり。古来授乳の霊徳顕著である。

B-3

神明神社
御祭神 大日孁貴命 外十二柱　伊賀市新堂一一九二一二　電話 四五―四四四九

明治四十一年、柏野の藤位神社・御代の諏訪神社・楯岡の神明神社の三社を合祀した。平成二十年合祀百周年記年祭を斎行した。

B-4

勝手神社
御祭神 正哉吾勝々速日天忍穂耳命 外十柱　伊賀市山畑四八一

山畑区内に鎮座し、上中下の地区にあった神社を明治三十九年合祀して、勝手神社と称し山畑区の氏神として祀られている。十月第二日曜日に奉納の神事踊はユネスコ無形文化遺産である。

C-4

植木神社
御祭神 健速須佐之男命 外三十五柱　伊賀市平田六九九　電話 四七―〇四三二

明治七年に郷社に列し、同三十九年神饌幣帛料供進指定社に定められる。特徴ある祭は「伊賀最大最古の夏まつり」と称し、毎年七月最終土・日に斎行される祇園祭は勇壮である。

D-4

酒解神社
御祭神 木花咲夜比賣命 外二十三柱　伊賀市坂下五一九　電話 四六―一二八二

酒解神酒解子神を祀る。地名の坂下は酒解の省訓にして社号を相離るべからざる関係を有し、古来安産の守護神・酒造の神として地方の尊崇厚く参拝者常に多し。

E-5

阿波神社
御祭神 稚日女尊 外十八柱　伊賀市下阿波八七九　電話 四八―〇一五九

延喜式内旧郷社。主神の稚日女尊は天照大御神の妹神といふ。機織り転じて糸の神。衣食住の守り神とす。貞観三年従五位下を授けられる。また長く、杉尾白鬚大明神と通称された。明治四十年菅原神社、秋葉神社、津島神社など十八柱を合祀。十月末の秋祭が盛大。

D-5

葦神社
御祭神 大国主命 外二十七柱　伊賀市上阿波二六六五　電話 四八―〇二八八

延喜式内旧村社。孝霊天皇の御代勢賀（伊勢・伊賀）の国境に顕座。後両国に降臨し、幾多の変遷を経て、現在の子延・平松地内に祭祀。天正九年伊賀の乱で焼失。慶長十八年再建。明治三十八年三十社、四十一年富永・猿野の社を合祀。例祭は五月五日。

D-5

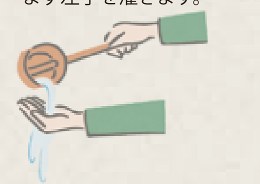
鳥坂神社
御祭神 大日孁貴命 外九柱　伊賀市甲野一三〇一　電話 四六―一五二三

伊賀市甲野に在り、伊賀名所記山田郡鳥坂明神鳥坂里に坐し式内鳥坂神社掲額被献現存す。明治四年七月村社に列せられる。

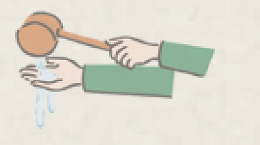
D-4

手水の作法
神社の鳥居をくぐったら、参拝する前に手水舎で身を清めます。

1 柄杓を右手で取り、まず左手を濯ぎます。



2 柄杓を左手に持ち換えて、次に右手を濯ぎます。



3 柄杓を右手に持ち換えて、左掌に水を注ぎ、その水で口を濯ぎます。そしてもう一度左手を濯ぎます。

青山（十四社）

大村神社
御祭神 大村の神（阿保氏始祖、垂仁天皇の皇子）　配祀神 武甕槌命・経津主命・天児屋根命 外十七柱　伊賀市阿保一五五五　電話 五二―一〇五〇

延喜式神名帳に記載の古社。境内には地震守護の「要石」を奉斎、又国重要文化財「宝殿」と日本三大奇鐘「虫食鐘」がある。

F-4

種生神社
御祭神 武甕槌命・経津主命・天児屋根命 外十七柱　伊賀市種生一二七八　電話 五五―一〇二五（宮司宅）

「伊水温故」によれば創立は神護景雲三年（七七一年）。秋季例大祭は古代豊かな渡御式（こたつき神事＋馬駆）本殿の神霊が御神輿に乗ってお旅所に渡御する。祭礼日十月最終（土）（日）。

G-4

八柱神社
御祭神 五男三女神 外四柱　伊賀市奥鹿野一一〇四　電話 五二―〇一五三

古くは八王子社と称した。天の安河の誓約の八柱の神を祀る。拝殿横に大岩があり、かつてはこの大岩を磐境として崇敬していた。明治の合祀の際、区民の努力で独立を守る。

F-5

比々岐神社
御祭神 比々岐大神 外十五柱　伊賀市北山一四二七　電話 五二―〇一五三

延喜式内社。かつて上津八幡宮と呼ばれ、社領百二十石を有した。天正伊賀の乱で、白龍（白蛇）が現われ、本殿は焼失をまぬがれた伝承がある。現在も当時の記憶をとどめる斧の傷がある。

F-4

鹿嶋神社
御祭神 武甕槌命、経津主神 外六柱　伊賀市霧生二五八七　電話 五二―〇一五三

春日遷幸伝説の際、阿保から夏見に遷る際、この地に立ち寄ったと伝えられている。享禄元年・慶長十三年の棟札が市の文化財に指定されている。

G-5

若宮神社
御祭神 天雲押命 外五柱　伊賀市老川二一九

近隣の鹿島神社の若宮として祀られ始めたと考えられる。本殿は桃山様式を伝える春日作り一間社である。永禄七年の棟札が一番古いもので、天正十年、慶長十年の棟札とともに伊賀市重要美術品に指定されている。

G-4

天満神社
御祭神 菅原道真 外三柱　伊賀市高尾四五一四

詳細は不明であるが元禄四年の棟札あり、承徳二年鈴又川の大洪水に依り神殿が流され神霊が木興まで流れ桶子神社で祀られ、交流が盛んになった。明治四十一年種生神社に合祀されるも昭和三十一年に元の地に鎮座した。

H-4

若宮八幡神社
御祭神 大鷦鷯命 外三柱　伊賀市高尾一七九四―一

創立は詳らかでないが棟札によれば寛文五年（一六六五年）の棟札がある。太政官布告は神仏分離を命じ明治三年観音寺と分かれて社殿を建てた。明治四十一年種生神社に合祀、終戦後に元の地へ造営鎮座された。

G-4

八柱神社
御祭神 五男三女神 外二柱　伊賀市福川二六四一二　電話 五五―二五二二

由緒・創建年代は不詳。古くから青山福川地区の産土神と尊崇「三国地誌」に「八王子祠」記し、古くは「八王子権現」と称し明治元年より八柱神社と改称。明治に種生神社に合祀。昭和三十年に分祀し、旧に復する。

F-4

伊賀東照宮
御祭神 徳川家康公　相殿 天照皇大神・天御中主大神・大国主神・天押雲命　境内社 火之迦具土神・綿津見神　伊賀市老川一〇三二―一　電話 五五―二五二二

境内には皇居の血脈をひく秘木「楓樹」がある。昭和天皇より日光に八代将軍吉宗公ゆかりの楓の木を下賜され、当宮に一本移植された。

F-4

奥山愛宕神社
御祭神 火之迦具土神　伊賀市勝地一八五五　電話 五二―〇一五三

青山高原に鎮座し古くより奥山権現と呼ばれ病気平癒、火伏せ、戦勝祈願の神様として崇敬されている。社叢の「ブナの原生林」は県の天然記念物に指定されている。

E-5

飛龍神社
御祭神 速玉男神　伊賀市腰山八三七　電話 五二―〇一五三

かつては熊野飛龍権現と称し、熊野速玉神社の速玉男神を主祭神とすることなどから、熊野三山から勧請したと思われる。戦後は区内の戦没者を合わせて祀り、毎年、春祭りに合わせて、慰霊祭を行っている。

G-4

鹿嶋神社
御祭神 武甕槌命 外三柱　伊賀市諸木四四二　電話 五五―二五二二

「三国地誌」に「鹿嶋祠」、「伊水温故」に阿保大村神社より勧請したことが見える。明治に種生神社に合祀。昭和三十年に分祀し、旧に復する。

G-4

市杵島神社
御祭神 市杵島比売神・火之迦具土神・大山祇神　伊賀市高尾五一一五九

創立は明らかではないが高尾出合より開拓移住甲野一族が守護神として伊勢国大野より勧請した。保存されている棟札によれば延宝元年（一六七三年）甲野喜内と記している。老父光速入地。

H-5

名張（三十二社）

宇流冨志祢神社
御祭神 宇奈根命 外十五柱　名張市平尾三三一九　電話 六三―〇四八六

名張の鎮守神と称され松倉豊後守勝定の尊敬厚く名張藤堂高吉公の尊敬猶厚く、現在に至る。主祭神宇奈根命は川の曲る元の神にして水、河川の神、五穀豊穣の神でもある。天照大神、春日大社の御祭神共に遷幸の際、祀られる。

G-2

蛭子神社
御祭神 八重事代主命 外五柱　名張市鍛冶町九七　電話 六四―〇六五九

往古より現在社地に鎮座ましまし蛭子神社と称し商売繁盛の神として近郷近在より参拝者多数有り古くは山の物と海の物との交換の市が立ち、今も二月七日八日の祭りには、植木市と蛤市が立ち参拝者で賑わう。

G-2

春日神社
御祭神 天児屋根命 外九柱　名張市蔵持町原出三七六

秋季例大祭には蔵持獅子神楽保存会による三頭立ての獅子舞が奉納され、こども達の天狗も加わり氏子崇敬者に親しまれている。またこども神輿が町内を練り歩き、賑う。

G-2

寿榮神社
御祭神 藤堂高吉公 外二柱　名張市丸之内五四ノ五　電話 六四―〇六五九

藤堂高吉公逝去により家臣が、遺徳を偲び藤堂邸奥に社を建て広く民の参拝する処と成った。旧社格は、大正十年藤堂家領地十九地区総代の連署嘆願により村社と成る。

G-2

杉谷神社
御祭神 天之穂日命 外十一柱　名張市大屋戸六十二　電話 六三―三三六五

永延年間に大江朝臣三河守貞基により創建される。鳥羽天皇の御代に菅原道真公を勧請し、後に名張郡三十余郷の惣社となる。十一月二十五日には名張郷大祭が斎行される。御本殿は三重県文化財に指定されている。

G-2

中山神社
御祭神 天児屋根命 外三柱　名張市薦生二一四　電話 六三―一九四二

第四十八代称徳天皇の御宇、常陸国鹿島宮御神霊、奈良三笠山に遷座のため神護景雲元年出御。積田の宮より薦生の里に渡御。数ケ月此の地に御滞在し給う御垂跡地也。往古春日神社と称すが明治三十九年中山神社と改称す。

F-2

上長瀬國津神社
御祭神 大名牟遅命 外一柱　名張市長瀬二二八四

伊勢街道沿いに鎮座される。かつて伊勢の神宮領六箇山に属し、古文書に朝夕御饌の川魚を献上していたとある。今でも好漁場は変わらず夏季には鮎釣りで大いに賑わう。布生の國津神社に合祀されたが後に復祀鎮座した。

H-3

八幡神社
御祭神 応神天皇 外五柱　名張市赤目町星川四八五

創祀については不詳だが、天正九年（一五八一）伊賀の乱に際し、織田軍により焼亡せしめられたが、慶長六年（一六〇一）社殿が再興された、神前を竜神山の七ツ池からの清流が流れる。

H-2

津島神社
御祭神 建速須佐之男命 外二柱　名張市赤目町長坂七五一

赤目滝で有名な延寿院の宮房で同寺には牛頭天王宝印の版木が現存し、寺号黄龍山の黄は、牛頭天王が牛との関連から、アメウシのアメ色→黄色から関係があると考えられる。水神さんでもある。

H-2

春日神社
御祭神 天児屋根命 外五柱　名張市赤目町一ノ井四七四　電話 六四―〇六五九

本社祭神記によれば安部田の地の鹿高の分霊を移し祀って社とし、伊賀の乱に遭うも慶安二年（一六四九）再興されたといわれる、明治四年村社に列せられ今日に至る。

H-2

相楽神社
御祭神 天押雲命 外四柱　名張市赤目町相楽三六一一一

四百年以前、南都春日社の祢宜野宮主水が若宮社のご分霊を祭る。一時丈六の八幡社に合祀せられていたが、平成三年鎮守の祭を再生し、今日に至る。境内に英霊二十一柱も祭祀。

G-2

勝手神社
御祭神 天忍穂耳命 外十三柱　名張市赤目町柏原四六四

永禄五年（一五六二）滝野城主、滝野十郎吉政が、大和吉野山にある勝手神社より勧請し、守護神として祭祀されてきた。天正伊賀の乱最後の地となったが、再興された、文禄二年（一五九三）の棟札が現在する。

H-2

天満神社
御祭神 菅原道真 外二柱　名張市赤目町長坂一〇六

社伝によれば慶長元年（一五九六）河内国道明寺天満宮より、勧請し、同五年遷座祭をおこない、氏神として祀ったと伝える。梅林がきれい。

H-2

八幡神社
御祭神 応神天皇 外十柱　名張市赤目町丈六三四　電話 六三―一七六四

自然深き赤目の丈六区と檀区の氏神様。観応元年（一三五〇年）に京都の石清水八幡宮より分社された。境内には樹齢七百年を超える欅の大樹があり、御神木とされている。

H-1

國津神社
御祭神 大己貴命 外二柱　名張市上比奈知八一

上比奈知はかつての伊勢の神宮領である六箇山に属していた。承平四（九三四）年の伊賀國夏身郷刀禰解案に「比奈知」とある。ヒナチとは、日当たりのよい場所とされる。夏にうちわ取り神事が斎行される。

G-3

一宮神社
御祭神 金山比賣神 菅原道眞 外二柱　名張市夏見坊垣三三七五一

寛文年中一ノ宮村敢国神社分霊を延寶六年に一社を設け一宮と称しこの所に奉祀す。しかし天正九年伊賀の乱に遭遇するも、明治二十二年十月再び氏子崇敬者一同の篤志により再建せらる。

G-2

白山神社
御祭神 菊理比賣命 火産霊命 外三柱　名張市上三谷一三四一二

当社は天正年間に焼失後再興されたもので、同殿に祀られる秋葉神社はかつて秋葉山頂に鎮座し伊賀・伊勢・大和の鎮火の神といわれていた。一月の鎮火祭は例年多くの参拝がある。

H-1

箕曲神社
御祭神 応神天皇 外七柱　名張市箕曲中村八二一　電話 六三―三三〇〇

往古から八幡神社として現在地に存在していた。当村の郷士中村氏が、永禄年間、鎌倉八幡宮に参詣し御分霊を授けられたと伝えられている。明治に区内の神社を合祀して箕曲神社と改称された。

G-2

国津神社
御祭神 大名牟遅神 外十一柱　名張市青蓮寺四八八

ぶどう狩りや、ダムで有名な青蓮寺。伊勢神宮領六箇山（むこうやま）と呼ばれた地域の一つで、国津神社が点在する。その一つであり、香落渓もこの地域で、深い森林がある。百合が丘もこの地域である。

H-2

國津神社
御祭神 大國主命 外五柱　名張市布生一一一〇

かつて伊勢の神宮領六箇山布乃布に属し、布を献上していたことから布生とよばれるようになった。五穀豊穣、國家安泰を祈願し、八月の八朔祭では子供相撲が盛大に奉納される。十月の例祭には特殊神饌がお供えされる。

H-3

稲荷神社
御祭神 宇迦之御魂神 外五柱　名張市瀬古口三二七　電話 六三―三三〇〇

古伝によると稲荷大神が山城国伏見より河内、大和国を巡り、伊賀の当地に鎮座したと伝えられている。神社記によれば慶長二年伏見稲荷大社より御分霊勧請したとある。境内地には祇園社、山の神社、川徳社がある。

G-2

積田神社
御祭神 武甕槌命 天児屋根命 経津主命 姫大神 外四柱　名張市夏見二一六二一　電話 六四―〇六六九

名を積田（つむた）の宮と言われ称徳天皇の御宇神護景雲元年六月二十一日鹿島大神（武甕槌命）が常陸国鹿島宮より、大和春日大社へ御遷幸の途次留在された。以来南都春日大社奥宮と言われ、神柿、鏡池の伝承有り。

G-2

國津神社
御祭神 大國主命 外十柱　名張市奈垣二〇四二

旧国津小学校校歌にもあるように伊賀地の奥に鎮座される。かつて伊勢の神宮領六箇山長木として「長い木」を納めていた。現在は「長生き」で元気なお年寄りが多い村となっている。三月には疫病除大祭蘭祭が斎行される。

H-3

國津神社
御祭神 大己貴命 外七柱　名張市長瀬一四五四　電話 六三―〇八五五

旧国道三六八号線に面した小高い山の裾にあり、長瀬太郎川の清流が、比奈知ダムに注いでいる。この川は鮎の好釣り場で、組合組＝（氏子）たちはご神徳を仰ぎつつ、釣人たちにも奉仕せらている。

H-3

春日神社
御祭神 天児屋根命 外九柱　名張市西田原二九〇〇

西田原地区には「咸天（かんてん）さん」と呼ばれ親しまれている、子供の守り神である鬼子母神が祀られている咸天狗社がある。五月五日の例祭には毎年多くの参拝がある。

F-2

鹿高神社
御祭神 鹿高神 天児屋根命 外十七柱　名張市安部田一九四二　電話 六四―〇六五九

壬申の乱の時大海人皇子（天武天皇）が大和吉野より美濃路に行く途中、伊賀に入られた時大雨にて宇陀川が氾濫し、皇子渡御させる為二頭の白鹿が現れ渡御せられ、その後一頭の白鹿となり、片鹿と名残りが由来となった。

H-1

名居神社
御祭神 大己貴命 外六柱　名張市下比奈知二〇九二　電話 六四―〇六五九

日本書紀によれば推古七年大和地方中心の大地震があり、諸国に地震の神を祀ったと有り、伊賀名張では当社である。「ナイ」は地震の古語である。又比奈知川上流の国津神の総社と言われている。

G-2

美波多神社
御祭神 天照大御神 外十三柱　名張市新田一〇八七　電話 六五―一二三〇

新田御鎮座三柱神社の境内社として灌漑開発の祖、加納直盛公を勧請、加納神社を建立。三柱神社は近隣各社と合祀、のちに美波多神社と名を改め現在に至る。

F-3

勝手神社
御祭神 大物主神 外十八柱　名張市黒田一一七六　電話 六三―三三〇〇

東大寺黒田荘無動寺の僧、実誉上人が吉野より観請し、同寺の鎮守としたのが始まりと伝えられている。通称金比羅さんの名で親しまれ、四季の景色美しく、名張の里をも一望できる景勝地である。

G-2

春日神社
御祭神 天児屋根命 外三柱　名張市矢川六九一　電話 六三―〇四一九

大海人皇子挙兵の際、伊賀国に入ろうと宇陀川に至ると、白鹿が迎えに現れ、無事川を渡られた。その白鹿は春日大神の化神と伝えられている。境内地に県指定の燈籠があり、氏子八十数戸で年中祭儀が執り行われている。

H-1

國津神社
御祭神 大己貴命 外十柱　名張市滝ノ原五九九　電話 六四―〇六五九

由緒不詳ではあるが昔より伊勢平氏の落ち武者の里と言われ現在も昔のままの祭祀が強く残っている。本祭の神饌は調理神饌で祝宴は男子（家長のみ）の参集で、盃事は謡を以って成されている。

G-3

龍口白山神社
御祭神 菊理比咩命 外三柱　名張市竜口六九六

竜口は大和にもあって竜口山と一体であり、山資源が豊富な事から寺院による山騒動が度々行われた。天正伊賀の乱で相当な被害に合うも、氏神信仰は今なお脈々と守り続けられている。

H-1

語句説明

≪延喜式内社（えんぎしきないしゃ）≫
延長5年（927）にまとめられた「延喜式」の巻9・10に記載された、当時「官社」とされていた全国の神社一覧である。国・郡別に神社が羅列されており、官幣・国幣の別、大社・小社の別と座数などが明記されている。記載された神社（式内社）は全国で2861社あり、伊賀には25社あった。

≪天正伊賀の乱≫
天正7年（1579）の第1次と天正9年（1581）の第2次とがある。第1次は織田信雄により侵攻を受けたが、伊賀勢がこれを退けた。第2次では織田信長の軍勢４万が侵攻した。この第2次の侵攻により、多くの神社仏閣が焼き討ちにあい、社殿・古記録等を失った。

≪文化財一覧（県指定以上・神社関係）≫

【国指定】

＜重要文化財＞

大村神社	宝殿（F-4）
高倉神社	本殿 境内社春日社・八幡社本殿（C-2）
猪田神社（猪田）	本殿（E-3）
射手神社	十三重塔（D-2）

＜重要無形民俗文化財＞ユネスコ無形文化遺産

菅原神社	上野天神祭ダンジリ行事（D-3）
勝手神社（山畑）	神事踊り（C-4）

＜天然記念物＞

高倉神社	シブナシガヤ（C-2）

【三重県指定】

＜有形文化財＞

猪田神社（下郡）	本殿（E-3）
愛宕神社	本殿（D-3）
杉谷神社	本殿（G-2）
春日神社（川東）	拝殿（C-4）
菅原神社	楼門・鐘楼（D-3）
菅原大邊神社	岩根の磨崖仏（D-2）
春日神社（西山）	木造獅子・狛犬（C-1）
春日神社（川東）	雨乞願解大絵馬（C-4）
春日神社（矢川）	石燈籠（H-1）
勝手神社（黒田）	石燈籠（G-2）
宇流冨志祢神社	能・狂言面（G-2）
射出神社	銅経筒附法華経残欠一括木札一枚（D-2）
敢國神社	三十六歌仙扁額（C-3）
種生神社	棟札（G-4）
杉谷神社	紙本着色北野天神縁起（G-2）

＜無形民俗文化財＞

敢國神社	獅子舞　（C-3）
陽夫多神社	願之山行事（B-3）
植木神社	祇園祭（D-4）

＜史　　跡＞

猪田神社（猪田）	猪田神社古墳附古井（E-3）

＜天然記念物＞

高倉神社	アヤマスズ自生地（C-2）
奥山愛宕神社	ブナ原生林（E-5）